

(様式1)

令和5年度 学力向上を図るための全体計画

学校名	墨田区立押上小学校
校長名	島田 和久

1 本校の学力に関する状況

(1) 墨田区学習状況調査結果から

成 果	課 題
<p>◎振り返りカードの活用(単元ごと)。</p> <p>◎家庭学習の活用・定期的な小テストの実施。 ロイロノートを活用した家庭学習に定着。 (目標値との比較)</p> <p>【国語】(目標値と同等、上回る学年・数値)</p> <p>・知識・技能 2年(+6.1)、3年(+1.9)、4年(+8.3) 5年(+3.8)、6年(+4.9)</p> <p>・思考・判断・表現 2年(+3.6)、3年(+4.7)、4年(+11.1) 5年(+6.2)、6年(+7.8)</p> <p>・主体的に学習に取り組む態度 2年(+4.2)、3年(+15.3)、4年(+10.9) 5年(+2.9)、6年(+9.2)</p> <p>【社会】(目標値と同等、上回る学年・数値)</p> <p>・知識・技能 4年(+7.6)、5年(+4.0)、6年(+5.1)</p> <p>・思考・判断・表現 4年(10.7)、5年(+2.9)、6年(+0.8)</p> <p>・主体的に学習に取り組む態度 4年(+14.1)、5年(+2.7)、6年(+4.3)</p>	<p>◎基礎基本の定着を図る。</p> <p>◎家庭学習の習慣化をする。 家庭における学習環境は十分と言えない。</p> <p>【国語】(改善策等)</p> <p>・知識・技能 目的に応じた言語活動の充実を図る。 漢字、文章の習得に努める。まずは読むこと。</p> <p>・思考・判断・表現 書くための必要事項を理解する。 読書の習慣化を進める。</p> <p>・主体的に学習に取り組む態度 わかったことを共有させ、自信に繋げる。 繰り返し学習、習慣化を進める。 興味関心をもたせる授業改善をする。</p> <p>【社会】(改善策等)</p> <p>・知識・技能 社会生活の仕組みを具体的に理解させる。 よりよい社会の問題解決するように学ぶ。</p> <p>・思考・判断・表現 多角的な思考・判断をさせる。 対話的な活動から自己の考えをもたせる。</p> <p>・主体的に学習に取り組む態度 データ資料、地図の読み取りをさせる。 地域社会に興味関心をもたせ、調べ学習を進めさせる。 世界の中の日本を学ぶ。</p>

【算数】(目標値と同等、上回る学年・数値)

・知識・技能

2年 (+6.0)、3年 (+6.6)、4年 (+9.9)

5年 (+4.9)、6年 (+12.6)

・思考・判断・表現

2年 (+9.8)、3年 (+10.0)、4年 (+11.5)

5年 (+5.0)、6年 (+9.1)

・主体的に学習に取り組む態度

2年 (+6.2)、3年 (+6.1)、4年 (+7.6)

5年 (+5.3)、6年 (+11.2)

【理科】(目標値と同等、上回る学年・数値)

・知識・技能

4年 (+9.1)、5年 (-2.4)、6年 (+3.8)

・思考・判断・表現

4年 (+1.5)、5年 (+0.6)、6年 (-0.8)

・主体的に学習に取り組む態度

4年 (+5.5)、5年 (-3.0)、6年 (-0.2)

【英語】(目標値より上回る・6学年)

・知識・技能

6年 (+6.4)

・思考・判断・表現

6年 (+5.2)

・主体的に学習に取り組む態度

6年 (-0.9)

【算数】(改善策等)

・知識・技能

基礎的・基本的な数量や図形の内容や性質を理解させる授業の展開をする。

基礎的・基本的な数量や図形の性質を理解させる。

・思考・判断・表現

算数で学んだことを日常生活で活用できるようにする。

・主体的に学習に取り組む態度

自ら考え解決するための学習に取り組み、数学的活動を通し算数の楽しさを学ばせる。

【理科】(改善策等)

・知識・技能

自然に親しみ理科の見方・考え方を働かせる授業改善を進める。

・思考・判断・表現

科学的な言語や概念の理解に努めさせる。

予想や仮設、観察、実験、まとめを理解させる。

・主体的に学習に取り組む態度

観察、実験を意図的、計画的に進める。

身の回りの生物、環境を理解し学ぶ楽しさを感じる。

【英語】(改善策等)

・知識・技能

日常生活に関する身近な簡単な事柄について概要を理解し、捉えられるようにする。

・思考・判断・表現

コミュニケーションを行う目的や場面において「話すこと」「書くこと」の必要性を学ばせる。

・主体的に学習に取り組む態度

英語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら英語を使って意欲的に、コミュニケーションを図るようにしていく。

(2) i-check(意識調査結果)から

成 果	課 題
標準スコアの高いもの・全国値+2P以上】 <u>全国平均スコアは50</u> 2年：(該当なし) <u>全国平均スコア</u> 3年：規範意識 +2.4 4年：いじめのサイン +3.9 5年：学級の規範意識 +2.6 6年：充実感と向上心 +2.7 他者からの評価 +2.1 思いやり +2.4 学級の絆 +2.5	【標準スコアの低いもの・全国値-2P以下】 <u>全国平均スコアは50</u> 2年：友達のささえ -3.9 いじめのサイン -2.6 3年：思いやり -2.6 4年：(該当なし) <u>全国平均スコア</u> 5年：(該当なし) <u>全国平均スコア</u> 6年：学習習慣 -2.8

(3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題
わかる授業・意欲を引き出す授業の実施】 <ul style="list-style-type: none"> ・全体的に目標値と同程度、あるいは上回る数値となっている。各学年、教科とも伸びが大きい。特に算数は全学年高評価であった。 ・昨年度の学習状況調査結果と比較すると、明らかに各学年の学力の向上が見られた。学校全体で取り組んだ意図的、計画的な学習指導の結果であると考え。今年度も引き続き学校全体での学力向上への取り組みを進めていく。 【学習内容の確実な定着（DE層の減少）】 <ul style="list-style-type: none"> ・学力向上便りを発行し、各学年の区平均と差があった単元、正答率が低かった単元を確認させると共に、教員の意識の向上に努めた。 ・単元のまとめ、苦手単元の指導等の取り組みを 	【わかる授業・意欲を引き出す授業の実施】 <ul style="list-style-type: none"> ・作成した「学力向上プラン」を継続的に実践する。「学力向上プラン」を意識した授業を行う。 ・個に応じた指導支援を適切に進めていく。 【学習内容の確実な定着（DE層の減少）】 <ul style="list-style-type: none"> ・正答率の低い単元は、単元末や授業の終末に「振り返りシート」等を活用する。正答率の低い単元は、放課後学習を利用し、時間をかけて重点的に指導する。

<p>実践する。「振り返りシート」等を活用した。基礎的基本的な学習内容の定着を図ることができた。</p> <p>【教員の資質の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力向上便りを定期的に発行させ、児童の苦手意識の改善に努めさせ、児童の理解度の向上から、日々の学習指導に意欲をもって取り組む教員が増えてきている。児童は、自分の考えを表現し、友達と意見を交流して考えを深める姿が見られた。 ・学年会や日々の実践によるOJTにより、若手教員の指導力が向上した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定着していない学習内容については、復習課題の家庭学習、放課後学習を充実させ、習慣化させることが大切である。 <p>【教員の資質の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・算数では、基礎的基本的な力をより確実にする。また、今後は表現力の向上も重視に入れていく。 ・学力向上につながるポイントにOJT研修を教職員が主体的に行えるよう、グループでの授業観察、学び合いを奨励していく。また、学習指導の内容を吟味し、計画的に授業を通しての研修を行う。
---	---

2 本年度の学力向上に関する主な取組

(1) 「わかる授業」「楽しい授業」の実施

- 意図的計画的に「わかる授業」を行い、児童が学習意欲を持てる指導を展開させる。
 - ・既習事項を活用した学習場面（導入）を設定する。
 - ・授業展開を工夫し、わかる、楽しい授業を行わせる。

(2) 現学年で身につけるべき学習内容の確実な定着

- 「学力向上プラン」を実施する中で、各教科の強みと弱みを明確にして授業改善していく。
 - ・9～10月にふりかえり期間を設定し、前期の学習内容の定着状況をさせる。
 - ・2～3月にふりかえり期間を設定し、学年の学習内容の定着を図る。
- 学力向上委員会で、「ステップ学習」の指導内容を再検討する。
 - ・「振り返りシート」を冊子（ファイリング）にすることで、確実に実施する。

(3) 校内OJTによる指導力の向上

- 学力向上につながるポイント等、学力向上に特化したOJTを行う。授業公開を行うことで「振り返りシート」の活用方法、学習内容のまとめ方等、具体的な指導方法を学び合う研修会を行う。
- 自己申告面談の中間申告、最終申告で、学力向上への取組の進捗状況について再確認する。

3 「令和6年度 墨田区学習状況調査」における目標

(1) 目標

- ・全国平均を上回る。(基礎的・基本的な知識・技能等を定着させる。)
- ・DE層を30%未満に減少する。(児童の理解度に応じた学習を行う。)
- ・児童の心の状態の変化(i-check)を考慮した、個に応じた学習指導も計画的に進める。